

養父市立関宮学園 令和3年度 学校 評価

令和4年2月21日

1 学校教育目標

夢や目標を持ち、自ら学び、こころ豊かでたくましい児童生徒の育成

2 重点目標

- ①義務教育学校の特性を最大限に生かした学校づくりを進める。
- ②確かな学力を定着させるとともに自主的に活動する態度を養う。
- ③道徳教育や体験教育を充実し「心の教育」の推進する。
- ④教職員の資質・能力の向上を図る。
- ⑤学校・家庭・地域が連携し、生きる力を育む環境づくりに努める。

4 学校評価の実施方法及び総合的な学校関係者評価

- 実施の方法
 - ・9月及び1月に全職員による学校自己評価を実施
 - ・1月に保護者にアンケートを実施
 - ・2月21日に学校関係者評価委員会（学校運営協議会）を実施
- 総合的な学校関係者評価

義務教育学校2年目となり、義務教育学校の良さを感じる。総合評価としてもA評価ではないかと感じる。今後他市町でも義務教育学校として開設される学校が増えると思われる。本校での研究推進が、良き見本となれるように今後も教育推進に力を注いで欲しい。

3 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目	達成状況	学校の取組状況及び改善の方策等
学校運営教育活動	義務教育学校としての学校運営	A	○義務教育学校2年目となり、教職員はもとより、児童生徒も、一つの学校としての意識が高まった。 ○前期課程・後期課程の教職員がそれぞれの専門性を生かし、教科担当をする授業が増えたことにより学力・技術力向上につながっている。 ○各教科の中で、統一した取組みや系統性を意識した学習形態が進められるようになった。
	開かれた学校づくりの推進	B	○保護者や地域の方と関わる行事を、地域の新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮しながら、縮小を縮小するなどして実施できた。 ○学校だよりや学級通信等で、学校の様子を伝えることができた。また、ホームページによる発信を改善することができた。 ○前期課程だけの取組みであった「そうあくん通信」を、後期課程も含めて掲載するなど、そうあくんの日の取組みの推進を、全校生・全家庭を連携させることで、活動内容の充実につなげることができた。 △義務教育学校として地域に根ざした学校づくりを、学校、地域が一体となってさらに進める必要がある。
	危機管理体制の整備	B	○コロナ禍であるが、避難訓練を計画通り行うことができた。 ○保護者のメール配信システムの活用が有効であった。 △新型コロナ感染症感染拡大防止のため、引き渡し訓練が実施できなかった。
	生活指導	A	○生活アンケートや個人面談等で、いじめの未然防止と早期発見につながった。 ○生活指導日誌を前期・後期課程全職員に配信することにより、共通理解が図られ子どもへの対応ができた。 ○前期後期課程間で、児童生徒の情報を共有し、きめ細やかな指導につなげることができた。
	教職員の資質向上 (研修、体罰・ハラスメント防止)	A	○前期課程・後期課程の教職員が協働して、ICT機器活用や授業改善などの校内研修に取り組むことで、指導力向上につながった。 ○体罰・ハラスメント防止について研修等を継続的に行っている。
	業務改善・勤務時間の適正化	A	○ノー会議デー・定時退勤日の完全実施ができています。 ○平日1日、土日どちらか1日のノー部活デーを完全実施できている。 △普段の退勤時間も早くなっている。今後業務内容の整理と精選を進め、持ち帰り仕事や休日出勤などの軽減を目指す。
教科指導	自ら学び、自ら考える力の育成	A	○他学年との交流学习を行うことで、自分たちの成長を感じたり、目標とする将来の姿を想像することで、学習に対する意欲が高められた。 ○ICT機器を活用した学習形態を進めることで、児童生徒の自ら学ぶ意欲が高められた。 △感染予防の関係で、小グループで意見交換を行う対話的な学習をおこなう機会が減っている。
	基礎の定着と個に応じた学習指導	B	○T T (同室複数) 指導や、少人数指導により個に応じたきめ細やかな指導が行えている。 ○ICT機器を活用し、個々の学習スピードや理解度に合った学習活動が進められるようになった。 ○前期課程・後期課程の枠を超え、系統性を持った教科指導をより推進し、より学力の定着・向上につなげる。
	道徳教育	B	○年間指導計画に基づき計画的に授業を行うことができた。 ○ICT機器を活用した授業展開を研究・実施することができた。 △授業参観等で直接保護者や地域の方に授業公開等、道徳教育推進の状況を伝える機会がないことから、通信やホームページなどを活用し公開していく必要がある。
	外国語教育	A	○後期課程の外国語教員が前期課程の指導に関わることで、充実した授業展開を進めることができた。 ○前期課程・後期課程が一緒に研究授業を行うことで、指導力とALTとの連携が向上した。
	9年間を見通した教育の推進	C	○校内研修を主軸として、小学校・中学校の教育課程を繋ぎ合わせ、一つの教育課程として推進しようとしている。 △9年間の教育課程を創り上げる、具体的な方針（検討委員会等）が必要である。
課題教育	人権教育	B	○人権作文の作成や人権講演会に参加するなど、人権意識の高揚を図ることができた。 △多様な人権に関する問題が社会で起こっている。より計画的に発達段階に応じた人権感覚の育成に取り組む必要がある。
	特別支援教育	A	○校内教育支援委員会のもと、個に応じた指導・支援が組織的に行われた。 ○特別支援学校から講師を招聘して、個別の支援に関する指導を受けた。
	キャリア教育	B	○児童生徒の発達や学年の系統性を踏まえた内容を実施することができた。 △前期課程と後期課程の内容に、より系統性を持たせる必要がある。
	健康教育	B	○新型コロナウイルス感染拡大防止に関して、正しい知識を身につけて予防に取り組ませることができた。 ○歯磨き指導や、睡眠指導（ねるねるウィーク）に取り組むことができた。
	食に関する教育	A	○栄養教諭や地域ボランティアと連携し、食育指導を推進することができた。 ○前期課程高学年を支援者とした下級生の調理実習を行うなど、子どもたち同士で食について考え学ぶ機会を実施することができた。
	情報教育	A	○校内研修の柱としてICT機器の活用を取り上げ教職員の指導能力の向上を図ることができた。 ○教育全般においてICT機器の活用を推進し、児童生徒の利活用能力の向上が図られた。 △発達段階に応じた情報モラルの育成を、計画的に進めていく必要がある。

5 評価項目ごとの学校関係者評価

学校関係者評価
<p>・評価が高くなったのは、義務教育学校2年目となり、教職員間で義務教育学校として取り組むべきゴールが見えてきた成果だと感じる。</p> <p>・他地域でも学校の統廃合等が進められている。今後、義務教育学校を設立する市町村も増えてくると思われる。本校でもより研究を進め、義務教育学校としての先進的な取組を発信し続けて欲しい。</p> <p>・児童生徒はもちろんだが、教職員も義務教育学校に勤務したことで、他校でも活躍できる力をつけて欲しい。</p> <p>・「そうあくんの日」の取組が、各家庭に浸透してきたと思う。学校からの継続した働きかけを期待する。</p> <p>・「そうあくんの日」の取組を通して、保護者や地域の方にも、池田草庵先生の存在や教えを広めて欲しい。</p> <p>・「9年間を見通した教育の推進」の項目がCではあるが、今後本校が義務教育学校の利点をさらに発展させていくために、系統性、一貫性のある教育課程を編成していくことを課題としてとらえていると考えたい。</p> <p>・パソコンを使っていたが、パソコンに頼りすぎると漢字などが書けない子が育ってしまうことも危惧される。両方の力を伸ばすことが必要である。</p> <p>・前期課程でタブレットを活用しての授業を見たが、子どもたちがスムーズに使用していた。これから必要な力になると思われる。一層の活用推進を望む。</p> <p>・女子の人数が極端に少ない学級が複数あった。今後子どもの数が少なくなることも合わせて、部活動等の運営が難しくなることも危惧される。</p> <p>・前期課程校舎の旧職員室の活用を進めるにあたって、後期課程生徒と前期課程児童が交流する場としたり、地域との交流の場としたりすることも考えられる。他地域の前例などを参考にしながら進めていく。</p>